

地域の魅力をおすそ分け

研究推進部長 丹生 憲一

6月23日(水)に2回目の「おすそ分け」講座をもちました。前週には9日には予定の合わなかった3人の講師の方にも参加していただき、3週にわたって校外の先生方に指導を受けました。16日に来ていただいた、出町慎さん、中川ミミさん、一宮祐輔さんに2週にわたって同行し、授業を見てきましたので、その中で見られたアドバイス、発展例を紹介します。

一宮さんからはまず、前週まで調べてきた内容を聞き取ってもらい、質問、助言をいただきました。1組の「丹波に人を集めたい」というテーマで「農業体験」を提案していた班に対して、「まずは自分達が体験してみてもはどうでしょうか？」と提案。「田舎体験」を提案する班には「単に美味しいものだけではなく、丹波でしかできない他の要素を掛け合わせることで、ここにしかないものを考えてほしい」と「掛け算の発想」を提案していただいています。さらに、町のあちこちにコンビニが見られ、それなりに便利な環境にありながら、少し離れると川岸で蛍の乱舞が見られるようなところは、どこにでもない。…でも、そこに住んでいる人にはそれが魅力だと感じないのではないか?とも投げかけられています。

23日には谷口進一さん、宮川五十雄さんが再び合流され3人チームになり、3人が改めて各班に話を聞いていただきました。「丹波の自然を守りたい」という班には「本当に守りたいものは何?」と問われ、その結果「絶滅危惧種のホトケドジョウを守る」というテーマに絞られました。葉草葉樹公園をテーマにしていた班は、「葉草の種類を調べよう」ということ。「日ヶ奥の魅力を伝えたい」という班には「他のキャンプ場のことも調べて、日ヶ奥にしかないものを明確に…」という助言があったようです。丹波弁に取り組む班は「ある言葉に絞って、地域的な分布を見る」という方向性を見出していました。「観光スポット」を考えていた班は「おばあちゃんの里」に、「自然を活用した、サイクリング、トレイルランニング」と話していた班は、「高校生を対象にしたサイクリング」にテーマを絞ったようでした。また、最初は「丹波の水質」に取り組もうとしながら、途中で「丹波竜」にテーマを変更した班は、やはり水質に取り組むことになり、谷口さんから「以前は地域によって、水質に差があると考えられていたが、市になったことで改善されている。でも、それを知っている市民は少ない」と、このテーマに取り組む意義を示唆されていました。

中川さん、出町さんからは「移住」をテーマに「なぜ、丹波への移住を決めたかアンケートを取る」と計画していた班に「本当に知りたいことは、不特定多数の人にアンケートを取るとぼやけてしまう。インタビュー形式で聞き取り調査にでかけては?」…と、具体的な改善案をいただきました。23日の講座では、6月13日付丹波新聞に掲載された「丹波は理想の田舎 “移住”テラスとサイクリング協 自転車で疾走」の記事を題材に、「移住してから数年経ったあとに、丹波の魅力を再発見できる機会にしたかった」「同じ時期に移住してきた、いわゆる『移住同期』が支え合うきっかけづくりという意図もある」にこのイベントが企画した思いを聞くことができました。コロナ禍で移住相談の件数は急増していて、令和元年2000件ほどだったのが2年度に3500件に、実際の移住者も56人から101人に倍増しているとのこと。令和3年は毎日のように相談を受け、この日の授業の後、イギリスからの移住相談をオンラインで受けるとのこと…。知の探究コースでは今の3年生が、移住してきた人に聞き取りを行ったり、オンライン相談窓口で、高校生の立場から移住者の相談に乗るということもしていますので、その時のデータなども活かしながら、発展させていければよいと思われます。丹波市の大野さんからは、市が行ったアンケートの集計がまとまり次第、データをいただくことになりました。

ここに挙げたのは、一般クラス、知の探究コースの一講座ずつですので、ほんの一例ですが、最初は漠然としていたテーマが、具体的なアドバイスを受けることで、より明確化されている様子がうかがえます。



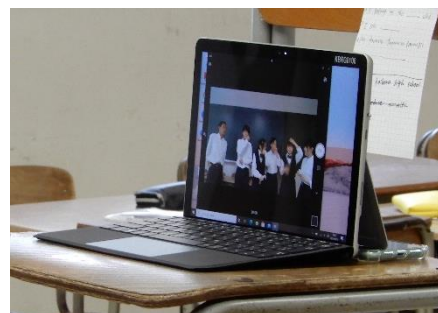
丹 BAL 台湾

6月22日(火)に予定していたオンライン交流は、台湾での休校が延長されたために行うことができませんでした。残念ながら、今学期中に交流することはできません。そこで、台湾の先生方と相談し、夏休みまでに「自己紹介動画」を双方が作成し、YouTubeに限定公開することにしました。治平高級中学からは、すでに20班分の動画が送られてきています。本校では15日、22日の2回に分けて動画撮影を行いました。それぞれの班が工夫を凝らして、作成できたようです。

6月29日には、「台湾とは何か」(野嶋剛著)を配布し、「読む」活動への導入を行いました。著者の野嶋さんから、各章を読むときに考えてもらいたい課題が与えられています。今から夏休みにかけて2か月間で本書を読むことで、さらに台湾について知り、そこから日本のこと、世界のことを考えていけるように期待しています。

7月14日(水)には、兵庫県人権教育研究協議会の後藤みなみ(王淑麗)さんの講演を聴きます。後藤さんは6年前から毎年講演していただいております。日本に帰化された台湾人という立場から、「国とは?」「アイデンティティとは?」ということを考える機会を与えていただいております。治平高級中学、台南第一高級中学、野嶋剛さんの著書を紹介していただいたのも後藤さんです。

人権HRでは八田與一さんを描いた「バツテンライ」を鑑賞し、期末考査後には学年のHRで「KANO」が上映されることになっています。高校野球のシーズンに、みんなであの映画を観ることができるなんて幸せなことです。特に野球部のみなさんのモチベーションアップにつながることは間違いありません。



総合Ⅲ・グローバル

総合Ⅲでは「入社試験」「入学試験」を想定して、グループで面接官・受検者、双方の立場から質問を考え、逆に質問を想定し、模擬面接を行いました。企業は地元企業の土田化学、大学は同志社大学の企業理念・アドミッションポリシーを題材にしています。入室・礼などの所作も含めて、各会場で真剣な眼差しで面接に臨む姿が見られました。面接後に、誰を採用・合格とするかも協議され、面接官側ではシビアなコメントも聞かれました。間近に迫った進路決定の一助にもなることでしょう。

グローバル(知の探究コース)では、英語の論文がほぼ完成しています。中にはさらに新しい論文を読んだり、英語の試験(IELTS)受験の準備を進めたりしている人もいます。毎回、一人一台のパソコンを前に、Varuna先生と話しながら進めています。

グローバル(一般クラス)は英語による学校紹介動画を完成させました! 今後はオーストラリアのVaruna先生の友人たちに見てもらって感想やアドバイスをもらいながら、学校案内としてふさわしいものに仕上げていきます。こちらの講座の人は、6月末の英語検定を受験しています。

